

うぶすな

～ふるさとを見る・知る・探す!～

うぶすなとは「生まれた土地（故郷）」という意味の言葉です。
井上通泰と柳田國男が幼いころを過ごした鈴ノ森神社のヤマモモの木を詠んだ歌も、この言葉からはじまっています。



第13号

新歳資料紹介

歴史民俗資料館では、今年も多くの資料を寄贈いただきました。そのうちの1つをご紹介します。

「新町天満宮御神鬮箱」

六角形の箱に「御神鬮（おみくじ）」と書かれています。現在よく見かける運勢を占うおみくじではなく、引いた札番で品が当たる福引的な使い方がされていたと考えられます。残念ながら台座は消失していますが、箱の中央に軸木が貫通し、上ではなく底に約1.5cmの穴があることから、六角形の箱を回転させて現在のガラガラのように使用していたと推定されます。

箱内には番号を記した約3500枚もの竹札が残されていました。竹札を調査したところ、「1～3086番」と「3087～3500番」で数字表記や札サイズが異なることを発見しました。このことから、後に約400枚のくじが追加されたことがわかります。追加分は竹皮がついたままのものもあり、急いで作られた印象を受けます。

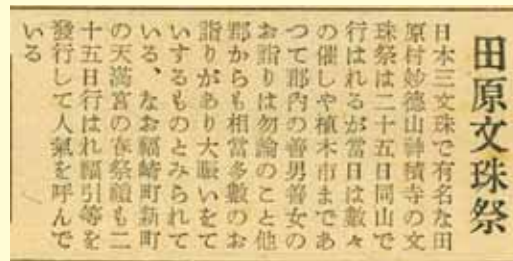
資料からは、福引の参加者が多くなり、天満宮のお祭りが繁栄していった様子が想像されます。



(箱) 縦 35.8 cm × 横 41 cm × 高さ 54.5 cm



天地には梅の紋が記されています。



▲「神崎タイムス」昭和25年2月25日発行
田原文珠祭とともに、新町天満宮の春祭礼の福引の人気について記載されています。



▲竹札。「三千八十六」以降は「三千〇」に表記方法が変わり、サイズも大きくなっています。

福崎町立

柳田國男・松岡家記念館 / 柳田國男生家

Kunio Yanagita and the Matsuoka Family Memorial Museum established by Fukusaki Town

令和5年度の催し報告

山 桃 忌



8月5日(土)、6日(日)にエルデホールで開催しました。

柳田國男検定



8月6日(日)に文化センターで開催しました。35名の方に挑戦いただきました。

日本民俗学会研究奨励賞



10月21日(土)に開催された日本民俗学会で授与しました。

第11回ふるさと賞

福崎町柳田國男ふるさと賞は、福崎町内の小中学生が地域の歴史や文化を調べた作品の中から選ばれます。

本年度の福崎町柳田國男ふるさと賞は、以下の3名が受賞されました。

- 小学校低学年の部 高岡小学校 4年 尾崎 琴 さん
- 小学校高学年の部 福崎小学校 6年 家田 塔羽さん
- 中学校の部 東中学校 2年 田畑 駿 さん

優秀作品は、10月28日(土)から11月26日(日)まで記念館、12月2日(土)から24日(日)まで図書館メディアルームで展示しました。

皆様のご応募ありがとうございました。



伊勢大神楽公演

11月11日(土)に、国指定重要無形文化財の伊勢大神楽が福崎へやってきました。3年ぶりの開催で、あいにくの小雨となりましたが、多くのお客様にお越しいただきました。



岩田先生の版画教室

12月3日(日)に版画教室を行いました。版画家の岩田健三郎さんに、年賀状作りをご指導いただきました。



令和6年度の催し(予定)

記念館の催し

- ◎ 令和6年度 松岡映丘画稿展
- ◎ 第45回山桃忌
- ◎ 第11回柳田國男検定

初級編 / 中級編 / 上級編

- ◎ 秋季企画展「柳田國男の旅(仮題)」
- ◎ 第12回福崎町柳田國男ふるさと賞
- ◎ 伊勢大神楽
- ◎ 岩田健三郎さんの版画教室

歴民の催し

- ◆ 令和6年度 第一回企画展
- ◆ 令和6年度 連続講座
- ◆ 令和6年度 特別展

うぶすな 第13号

令和6年3月15日発行

福崎町立柳田國男・松岡家記念館

〒679-2204

兵庫県神崎郡福崎町西田原

TEL 0790-22-1000

1038・12

◆ 休館日

月曜日(祝日は開館)

祝日の翌日(土・日は開館)

12月28日〜1月4日

◆ 開館

午前9時〜午後4時30分

(入館は午後4時まで)



(兵庫県指定文化財)

福崎町立
神崎郡歴史民俗資料館
Kanzaki County Museum of History and Folklore established by Fukusaki Town



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
Kunio Yanagita and the Matsuoka Family Memorial Museum established by Fukusaki Town

柳田國男生家



* 令和5年度の催し報告 *

春季企画展 「教科書展—理科編—」

当館には町内の方々より寄贈いただいた、明治初年から戦後までの幅広い年代の教科書が多く収蔵されています。

本展ではなかでも「理科」を取り上げ、時代とともに変化していった教科書の内容に注目しました。また教科書にちなみ、明治時代に撮影された日食の写真や、町内で採取した鉱物もあわせて展示し、「理科」の学びについて、様々な角度からご紹介しました。

会期
4/22(土)～5/31(水)



特別展「神崎タイムスにみる福崎—広告編—」

昨年に引き続き、神崎タイムスに関する展示を行いました。昨年は、記事を中心に福崎のうつりかわる暮らしについて取り上げましたが、今回は新聞の名脇役「広告」に注目しました。

広告は「時代を映す鏡」と称され、当時の流行・ニーズ・習慣・文化など様々な情報がつまっています。広告の特徴をあげると一つは、比較的短期間の掲載が多く、その時々にあわせ内容も表現も変化する性質があります。二つ目は、記事は日常より非日常の話題が取り上げられやすいのに対し、広告は日常を重視します。そのため、ある時代のある地域の日常を閉じ込めたタイムカプセルのような役割をはたしています。

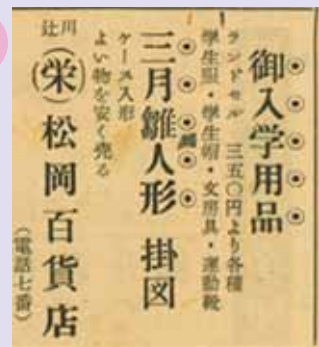
さらに神崎タイムスの広告は全国紙と異なり、地域の商店の店名・品名・値段まで詳細な情報を追うことができ、情報の宝庫となっています。

本展では、分析のなかでみてきた神崎タイムスの広告の特徴のほか、広告にみる四季や時流といった角度から、郷土紙ならではの昭和の福崎の情報を読み解きました。

会期
10/28(土)～12/10(日)

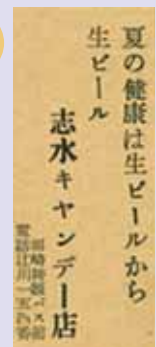


春



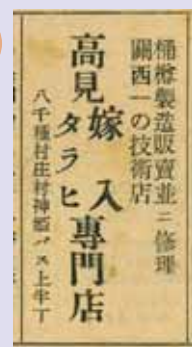
ランドセル 350円より
昭和33年2月25日
春は入学用品の広告が多く出されました。

夏



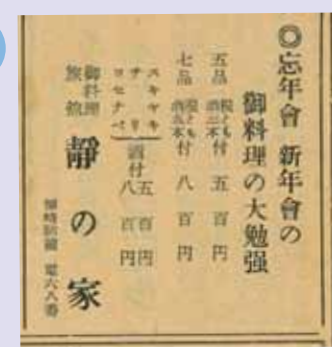
夏の健康は生ビールから
昭和29年7月5日

秋



嫁入タライ
昭和26年12月25日
秋は結婚シーズンとされ、嫁入道具が販売されました。

冬



忘年会・新年会の御料理
昭和27年12月5日
「スキヤキ」などの料理が500円・800円とあります。

松岡映丘画稿展 (4/8～6/4)

毎年春恒例の画稿展では、「物語絵の世界」と題し、『源氏物語』の一節を描いた《夕顔》《住吉詣》や『太平記』を題材にした《青砥藤綱》《池田の宿》など、物語の一場面を描いた作品を展示しました。
《住吉詣》(左隻・右隻)



松岡操・たけ展～松岡五兄弟を育てた夫婦～

秋の企画展では、10月7日(土)から12月10日(日)まで、柳田國男ら兄弟の父母について紹介する展示を開催しました。二人の生涯に焦点を当て、新出資料や地域の足跡などを交えてご紹介しました。

父・松岡操は、天保3年(1832)6月12日に現在の福崎町西田原で生まれました。幼くして学才に恵まれ、姫路藩の藩校好古堂への道が開かれた操は、16歳で成績優秀のため姫路藩主の前で漢詩を披露するという栄誉を授かります。

しかし、好古堂を退学となり明治維新以後は、操は就職しては仕事先の閉鎖や終了により職を失うという憂き目に度々遭遇することになります。時代の激流の中で、操は隠居するまでの約20年ほどのあいだに10余りの職を転々としながら、家族のために職をつなぎ続けました。

隠居後、長男鼎が茨城県布川で医院を開いてからは同地へ移り、息子たちの居宅に身を寄せ、平穏な日々を送ることとなりました。

母・たけは、天保11年(1840)6月14日、現在の加西市北条町に生まれ、安政6年(1859)に20歳で操に嫁ぎました。

たけ自身は読み書きは出来ませんでした。抜群の記憶力で様々な古典籍を「耳から覚え」、子どもたちの素読の間違いを直すのは常であったといえます。また知恵者でもあり、揉めごとや困りごとの解決にも力を貸して、近所から頼りにされていたと伝わっています。

明治29年(1896)7月8日、たけは57歳の生涯を閉じ、操もまた同年9月5日にたけの後を追うように亡くなります。

夫婦が息子たちに与えた教育や、優れた記憶力、問題解決能力は、五人の兄弟それぞれに優れた資質として受け継がれ、豊かな才能を花開かせる礎となりました。



▲多くの方に来館いただきました。

企画展講演会 (11/13)

企画展の開催に伴い、今年も東京学芸大学名誉教授で記念館顧問の石井正己先生に「松岡家の教育力」と題してご講演をいただきました。



▲講演の様子